

データサイエンス共同利用基盤施設
令和4年度 第3回運営会議 議事概要

日 時：令和4年9月26日（月）10:00～11:15

場 所：ウェブ会議（Zoom を利用）

出席者：

【外部委員】小舘委員、近藤委員、諏訪委員、高橋委員、照井委員、堀委員（副議長）、矢嶋委員、横山詔一委員、横山雅之委員

【内部委員】荒木委員（議長）、門倉委員、前田委員、北本委員、野口委員、上野委員、野水委員

【陪席】 橋本副課長、山田係員、田河係員、金川特任専門員

議 題：

議事に先立ち、橋本副課長から、定足数を満たしており本会議が成立することが報告された。

審議事項

1. 前回議事要旨確認

荒木委員から、修正意見等がある場合は会議終了までに申し出るよう発言があり、特段の意見はなかったため、案のとおり確定した。

また今回から HP に掲載することについて説明があった。

2. 令和4年度人事について（新規（兼務）、昇任（客員））

北本委員から、資料1-1及び1-2（回収資料）に基づき、兼務1件について説明があり、審議の結果、承認された。

続いて荒木委員から、資料1-1及び1-2に基づき、データサイエンス人材育成・教育拠点の兼務について1件、配置換え1件、同教授について昇任(特任教授)について説明があり、審議の結果、承認された。

照井委員より、新たな拠点は修士レベルより上のドクターを輩出するような教育を行うような拠点なのか、総研大との関係性はどうなるのかという質問があり、荒木委員よりドクターレベルの教育は行うがドクターの学位は直接出せないという説明があった。また、修了証のような物を発行するのか、今の授業とつなげるのかという質問があり、荒木委員より今の授業との繋がりや修了証については検討中であると説明があった。

堀委員から教育の実施場所はどこになるのかという質問があり、荒木委員より、拠点の設置自体はDS施設に置くことになるが、教育の実態としては、統数研やDS施設各センターでのOJT等、様々な場所で行うことになるだろうとの説明があった。

3. 2022年度第2回公募型共同研究の書類審査結果について

野水委員から、資料2-1から2-3に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

矢嶋委員から昨年度第2回公募型共同研究の申請件数について質問があり、野水委員

より3件と回答があった。続けて、矢嶋委員より、3回目の募集は1、2回目に比べて研究期間の短さが申請の数に影響しているのかと質問があり、野水委員より現在そのような調査は行っていないが今後検討していくと説明があり、他これから新規参加機関や共同研究集会案件について増やしていきたい、という意見があった。矢嶋委員より、本公募について出来るだけ多くの研究者に知っていただくのが良いと意見があった。

報告事項

4. 令和5年度概算要求について

荒木委員から、資料3-1から資料3-4に基づき、令和5年度概算要求の概要について説明があった。

5. 2023年度国際シンポジウム（DSWS-2023）の開催について

荒木委員から、資料4-1に基づき、DS施設主催による国際シンポジウムについて説明があった。

6. その他

矢嶋委員より、国立大学共同利用・共同研究拠点協議会において、来年度予算について、大学の研究力向上のために横のつながりを作る為、大学共同利用機関をハブとして組織間連携を促進していくという計画があると文科省から話があったがDS施設では対応を検討しているのか、と質問があり、荒木委員より機構全体で具体的な案はなく、検討を進めている段階と説明があった。

高橋委員より、公募型共同研究について、募集回数をしっかり決めるなどの工夫があればよりよくなるのではと意見があった。このことについて、野水委員より、前年度に募集を行うことが理想的だが、予算を確定することが難しい。例えば、ITになじみのない人文系の研究者も募集しやすいような方法などを考えていきたいとの回答があった。

横山委員よりアライアンスへのアクティビティとして、様々な分野におけるデータサイエンスに関するつながりを持つような取組みを検討してはどうかとの意見があった。

近藤委員より拠点における育成する側の教員は、来年度から公募するのかと質問があった。荒木委員より、すでに前期から（パイロット事業が）始まっており、継続して行っているとの回答があった。

横山昭一委員より、統計エキスパート人材育成事業について、特に統計の基礎を持っていない人文系教員が参加する場合、どのような方法があるのか、という質問があった。荒木委員より統計エキスパートは、統数研が中心機関になって、コンソーシアムを形成し、その中から参加する形態になっているとの説明があった。横山昭一委員よりデータサイエンスというのは人文系でもまだ科目として確立しておらず、日本のデータサイエンスの底上げを考えたときに大きなマーケットになると考えられるため、引き続きDS施設でも連携を進めて頂けると良いとの意見があった。北本委員より、人文系でもデジタルヒューマニティという分野で関心を持つ研究者が増えてきており、人文系でも統計学の必要性は増

してきているので、本機構でもデータサイエンス人材を育成していくということが重要との意見があった。小館委員からも、データサイエンスについての人材を増やすべきであり、DS 施設が主導していくことがよいとの意見があった。

以上

資 料：

0－1	データサイエンス共同利用基盤施設運営会議委員名簿	P. 3
0－2	情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設運営会議規程	P. 4
0－3	令和4年度第1回運営会議議事概要	P. 6
0－4	同 ウェブサイト掲載案	P. 10
1－1	令和4年度人事案件 審議対象者リスト [回収資料]	画面共有
1－2	令和4年度人事案件 審査資料 [回収資料]	画面共有
2－1	公募型共同研究「ROIS-DS-JOINT2022」審査要項	画面共有
2－2	同 募集要項	画面共有
2－3	同 研究者一覧	画面共有
2－4	同 書面審査委員一覧	画面共有
2－5	同 審査担当割	画面共有
2－6	同 書類審査結果一覧 [回収資料]	画面共有
2－7	同 公募件数推移、参加機関分布	画面共有
3－1	令和5年度概算要求資料（要求構成）	P. 12
3－2	同 要求概要	P. 13
3－3	同 ミッション実現加速化経費総表	P. 14
3－4	同 組織改革分	P. 15
4－1	国際シンポジウム 2023（DSWS-2023）の開催について	P. 17